



山下欽也社長（右）から岩泉乳業の取り組みについて説明を聞く岩手大の学生

台風被害の復興 被災企業に学ぶ

大生
手入
岩新

岩泉

岩手大（岩淵明学長）
の新生入学生は13日、岩泉

町を訪ね、昨年8月の台風10号豪雨で被災した岩泉乳業の復興や産業振興の取り組みを学んだ。

約30人が参加し、山下欽也社長から豪雨災害からの復旧状況などの説明を受けた。

山下社長は牛乳の消費低迷や価格競争など苦戦を強いられる中、販売戦略を見直し、もちもちとした食感が特徴のヨーグルトが、人気商品になるまでの流れを振り返った。豪雨災害については工場の土砂撤去や社員のボランティア作業の写真を示し「8月の再稼働を目指し奮闘中で、楽しみに待っていただきたい」と呼び掛けた。

秋田県出身で農学部1年の小松莉奈さん（18）は「写真などを見て災害の怖さを感じた。大学にいる4年間で復興について勉強していきたい」と関心を高めた。

岩手日報2017年5月15日付朝刊

※この記事・写真等は、岩手日報社の許諾を得て転載しています